上韮生と槇山の分水嶺
物部の大尾根

木地師
惟喬親王を祖神として巻物を持ち山入合目から上は自由に伐ってよしという許しをえて、ろくろを使って椀や皿など器を作っていた。
とても位の低い人たちで、尾根を越えあるいは峠を越えて、いずこともなく現れいずこともなく去っていった。
天然林豊かな物部は笹や中東尾そしてこの尾根でも暮らしていた。
（田中誠「木地師研究」）

この深い山の尾根にも道がある。
いつ、誰がつくったのかわからないが猟師が獲物を追って歩いたり山仕事のために使う道だったり里と里をつないだ往還であったり神社への参詣や木地師が歩いた長い年月、様々な目的や意図を持ってたくさんの人が歩いていたことだろう。

山で持ち物が斜面を転がり落ちたら「こんぴら、こんぴら」とまじないをとなえると止まるといわれていた。

こんぴら こんぴら

吉井さんに聞いた話

2025.4 上韮生川の原流の尾根で大きなイノシシの骨をみつけた。立派な牙だったので下アゴを拾って帰った。ところが直後から微熱が続くようになったもしやイノシシのアゴが障ったかもしれんと気付き5月に元の場所へ上アゴと合わせてお返しすると不思議と回復してきた。
山のものは輿の未半分で拾わんと思いしらすべきことがあった。

分水嶺を歩いていると、いつも二者選択を重ねていきていることに気づく。
いつのまにか一つの道になっている。

昔、南池の東方四キロほど登ったところに大きな池があった。春のある日、鹿が水飲びをしているところの中内の猟師が通りかかり、その鹿を撃ち殺した。するとたちまち池は血に染まり、ゴーゴーと渦を巻いて水が抜け、その底には大木のような大蛇のむくろが横たわっていた。それからというもの、裕福だった南池は貧窮していき一人がいなくなっていった。
池の跡は「池の奈路」といわれ、うねうねとした森になっている。

根木屋の山中に八面王（やつらおう）の墓があると伝われる。根木屋の猟師が三日三晩追い続けようやく鉄砲で仕留めたとも。八面王の墓は木地師の墓であり、興味本位で見たり、さわったりしてはいけないと教えられた。

本来無一物の自分に気づく

ホウノキ

イスザキ

ミズナラ

落葉広葉樹

高井へ道険しい

南池

人工林

堂ノ原からの道。なに2時間かかった 2025.7.15

大礫の平 1270m

ブナ

有刺鉄線が張ってあった

なだらかで広い尾根

按部

石標 自印

勘定山へ 白髪山へ

注）超危険箇所

奈蔵山

風布林 石標 44 9:50

飯場跡

50年以上前、飯場に泊まりながら地形をとり植付をしていったという。

風布林境界

瀬次郎

人工林 不動堂

平家の岩屋

ここ、池の跡っぽい

人工林 山のてっぺんまで植えている。すごいことだ。

平家の岩屋の上にはかつて集落があり、岡内姓の人が何世帯も住んでいた。平地が30町もある。小松律男さんに教わる。

平家落人の一族は詩歌管弦がとても上手で頼ったら面倒があるといわれる。

百尾

別役

根木屋三角点 9:10 1150.9m

尾根すじは天然林

2024.12.18 このあたりから積雪。しーんと眠った冬の静かなこの尾根を一人でゆっくり気かねなく歩くというなんとなく考える。

一面の人工林。この林が加工技術の進歩によって、鉄やプラスチックなどに代わる可能性がある。建物CLTやバイオマス燃料などにもすでに取り組まれている。山は循環する。伐って植えて育ててまた伐って…。半永久的に循環する資源となる。その時、森林国の日本は資源国となる。「改質リグニン」はスギから作られる新素材で熱に強く、加工しやすく、環境にやさしい。石油に代わる素材になる。研究開発が進んでいる。

上韮生

立花の上に「牛びきのなる」という所がある。昔、韮生と槇山が境を争い、話がまとまらず双方から牛をほい上がらせて境にすることとした。
韮生は傾斜がゆるく油断をし、槇山は急坂を必死に登ったので峠を越して出会った。出会った地を「牛びきのなる」と呼ぶようになった。

土佐湾がみえる!!

石立

南西には浦戸大橋も見える。
山と海がつながっていることを実感。

牛びきのなる

下りに間違い注意

立花

水源地造成林 シカネット

槇山

三角点 917m

南側の展望が良い。大比～梁川方面まで広がる山並み。
大比から見えるとんがりはこのあたりだ。

この尾根が上韮生村と槇山村との境界になっていた。

西谷

西谷をはじめ各地の山はミツマタで光っていた。

昭和の半ばまでは百円紙幣の材料となったミツマタ栽培と林業が盛んで若い働き手も多く、とてもにぎわいがあった。
今、社会の仕組みが大きく変わり、裾野から人が減っている。

平井

柳瀬

スギ ちょっと急登

高板山方面がよく見える。

平井集落もよく見える

造林地

7:30

神社が祠の跡 石段がある

鉄塔

五王堂から仙頭へ送電

祝 香美市林業婦人部 35周年記念号

ミズナラが生えているところは冬になると、だいたい積雪がある場所の目印になる。

野々保

ニホンジカは年齢五歳で第一枝ができて、続いて第二枝、八年目に第三枝ができて完成するという。

川口

小浜

急斜面に茶畑が広がる

この高い山の上まで鹿防護ネットを張って水源地を造成する植林をしている。この尾根から川を覗くと、水はあたりまえにあるのではなくて尊い仕事があってこそ育まれていることを感じる。

S57年から約間勘定山のアヤヤやミズメなどの天然木がヘリコプター集材された。当時1㎥あたり50～100万円、トラック1台で1500万円もの値がついた。別府に臨時貯木場がつくられ、ハリポートにもなった。

白髪山から派生し大板まで続くこの尾根は(1790) 白髪山～押地勘定山にかけて稜線と谷までの標高差は1000mくらいもある。(315)
南側は特に急峻で稜線部はほぼ手つかずの森だが、シカの食害で木々の枯れやサワの衰退がひどいところもある。

あけぼの街道からこのどっしりとした山塊を眺めることができる。
大板から白髪山までのびる物部山脈!!

深い山の尾根にも道がある。
いつ、誰が作ったのか、偶然にできたのか猟師が獲物を追い、山仕事に通い里と里を結び、山の神を祭るために。
細く、たよりない道だけれどここを歩いていけば必ずふもとにたどり着ける。
ありがたいことだ。

ゆったりと水を湛える永瀬ダム
ゆったりと流れる物部川

トラバース

ミズナラ大木

押谷へ?

鉄塔 6:40 夜明け

いちかさ にかさ みかさやま

住友共電 仙頭方面に送電

畑跡 三笠山 塩切

里道がいくつも通っている

塩

大板

八王子宮

塩ノ峯公土方神社

山崎 AM5:40 PM4:30

仙頭

物部川水系には川口、五王堂、仙頭の三つの発電所があり、ここに集められて四国山地を越え新尾川へと送られる。

昭和のはじめ頃まで、イノシシのキバを身につけていると、エンコウにさらわれないという風習があった。子どもたちは毎年夏になると牡イノシシのキバをひもに通し、お守りとして肩から脇腹へかけてつるして川へ水泳に出かけていた。（「猟日記」萬村三至著 昭和39年出版）

かつて、川そのものの自浄作用を「三尺流れて清し」と表現していた。
現代の川は人の営みと不可分。水環境を守るのは人の意識と切り離せない。

かつて「土佐三大銘茶」に数えられた大板茶が栽培されている。
水はけのよい土地
昼夜の寒暖差
立ち上る川霧…
良質なお茶生産に欠かせない条件がそろっている。
歴代土佐藩主も愛飲したという。

白髪山を最高点にして物部のまん中を大板まで伸びる大きな尾根。
旧上韮生村と槇山村の境でもあり、上韮生川と物部川本流の槇山川との分水嶺でもある。
遠く近く眺めながら、いつかはこの尾根を歩いてつなげてみたいと思い続けた憧れの山だ。